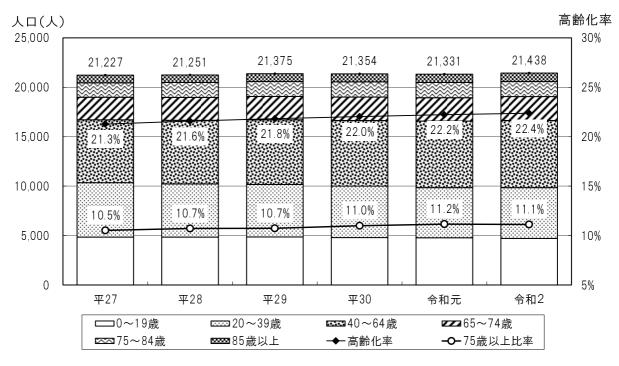
# 第3章 高齢者を取り巻く現状と課題

# 1 高齢者、認定者、介護給付などの状況

第8期計画の策定にあたり、高齢者数、要支援・要介護認定者数、介護保険サービスの給付状況などの推移をみます。

#### (1) 人口・高齢化等の状況

本町の総人口(各年10月1日時点の住民基本台帳)は平成27年から29年にかけて増加してきましたが、平成29年から令和元年にかけてゆるやかに減少し、令和2年には再び増加しています。一方、65歳以上の高齢者人口は、平成27年から令和2年にかけて年平均約50人増加しており、75歳以上人口でみると、同期間に年平均約30人の増加がみられました。その結果、令和2年には65歳以上人口比率(高齢化率)が22.4%、75歳以上人口比率が11.1%までゆるやかながら上昇しています。

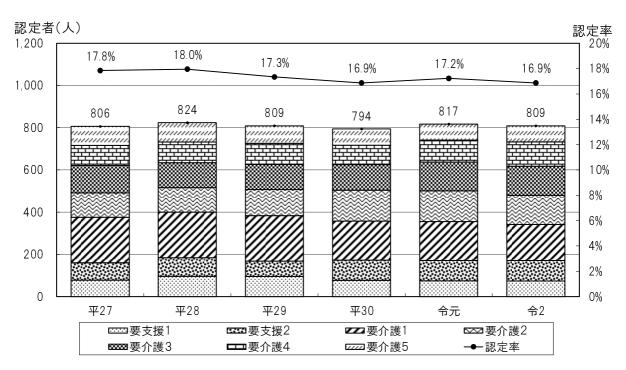


	平 27	平 28	平 29	平 30	令元	令2
0~19歳	4,838	4,844	4,860	4,802	4,778	4, 708
20~39 歳	5,515	5,373	5,302	5,199	5,071	5, 143
40~64 歳	6,357	6,446	6,548	6,647	6,741	6, 791
65~74歳	2,284	2,309	2,370	2,357	2,359	2, 409
75~84 歳	1,457	1,499	1,498	1,538	1,545	1, 531
85 歳以上	776	780	797	811	837	856
高齢者計	4,517	4,588	4,665	4,706	4,741	4, 796
高齢化率	21.3%	21.6%	21.8%	22.0%	22.2%	22. 4%
後期高齢者計	2,233	2,279	2,295	2,349	2,382	2, 387
75 歳以上比率	10.5%	10.7%	10.7%	11.0%	11.2%	11. 1%
全年齢計	21,227	21,251	21,375	21,354	21,331	21, 438

## (2) 要支援・要介護認定者の状況

要支援・要介護認定者数の推移(各年10月1日時点)をみると、認定者数全体は増減を繰り返しながら横ばいで推移しています。あわせて、認定率も上昇下降を繰り返しつつも、概ね横ばいで推移しています。

要介護度別の状況をみると、要介護1の割合が高く、全体の約22%を占めます。推移をみると、要支援1、要介護1、要介護5は概ね減少傾向にあり、要支援2、要介護2、要介護3、要介護4は概ね増加傾向にあります。



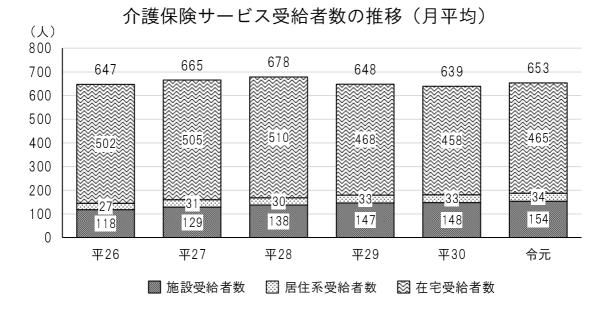
	平 27	平 28	平 29	平 30	令元	令2
要支援1	78	96	95	77	75	74
要支援2	82	88	73	95	96	97
要介護1	216	216	215	185	184	171
要介護2	115	116	124	147	146	137
要介護3	130	118	119	121	136	139
要介護4	95	98	100	92	104	115
要介護5	90	92	83	77	76	76
要支援	160	184	168	172	171	171
要介護	646	640	641	622	646	638
認定者計	806	824	809	794	817	809
認定率	17.8%	18.0%	17.3%	16.9%	17.2%	16. 9%
高齢者計	4,517	4,588	4,665	4,706	4,741	4, 796

※認定率は第2号を含む認定者数/第1号被保険者数

#### (3) 介護保険サービスの利用推移

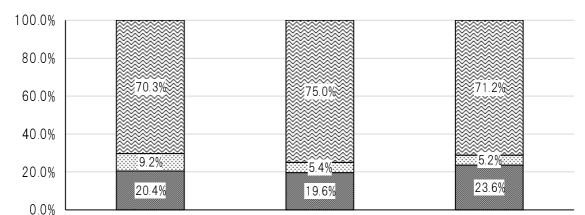
介護保険サービスの受給者数の推移をみると、平成28年度まで増加が続いてきましたが、平成29年度、30年度と減少し、令和元年度は再び増加しています。これらは介護予防・日常生活支援総合事業へのサービス移行の影響と考えられ、サービス受給はゆるやかに増加していると考えられます。

種類別の割合を国、県と比較すると、在宅サービスが 71.2%に上り、施設サービスが 23.6%となっています。施設サービス受給者の割合が国、県よりも高いのが本町の特性の1つだといえます。



※データは介護保険事業状況報告(年報)より。ただし令和元年度は月報の積算による。(以下同じ)

全国



介護保険サービス受給者割合の比較(月平均)

■ 施設受給者割合 図 居住系受給者割合 図 在宅受給者割合

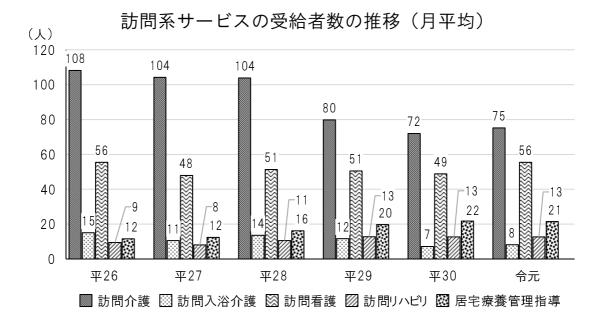
滋賀県

愛荘町

## (4) サービスごとの利用推移

#### ① 訪問系サービス

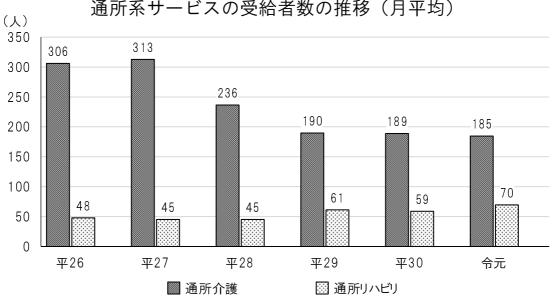
サービスごとの受給者数(月平均受給者数で、要支援者向けの予防サービスを含む。以下同じ。)について、訪問系のサービスをみると、訪問介護は介護予防・日常生活支援総合事業への移行に伴い、平成 29 年度、30 年度と減少しました。訪問入浴介護は利用が少なく、減少傾向にあります。また、訪問看護は横ばいから増加傾向にあり、訪問リハビリテーション、居宅療養管理指導は増加傾向にあったものが横ばいになりつつあります。



※受給者数は訪問介護、通所介護を除き、介護予防サービスを含んだ値。(以下同じ)

#### ② 通所系サービス

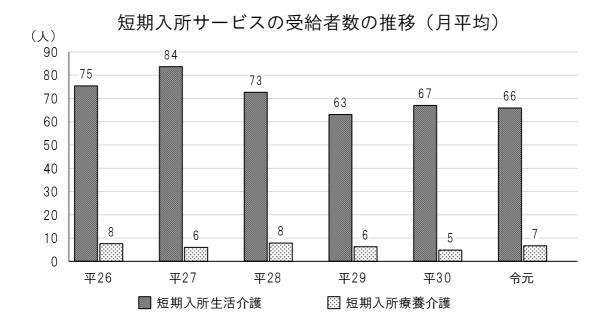
通所系のサービスの受給者数をみると、通所介護は平成28年度から地域密着型通 所介護の移行に伴い、また、平成29年度から30年度にかけて介護予防・日常生活 支援総合事業への移行に伴い、それぞれ減少していますが、その後は横ばいとなっ ています。一方、通所リハビリテーションは増加傾向にあります。



通所系サービスの受給者数の推移(月平均)

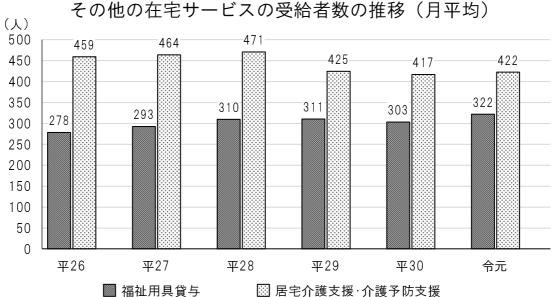
#### ③ 短期入所サービス

短期入所生活介護の受給者数は、平成27年度から29年度にかけて減少し、その 後、横ばいで推移しています。また、短期入所療養介護の受給者数は横ばいとなっ ています。



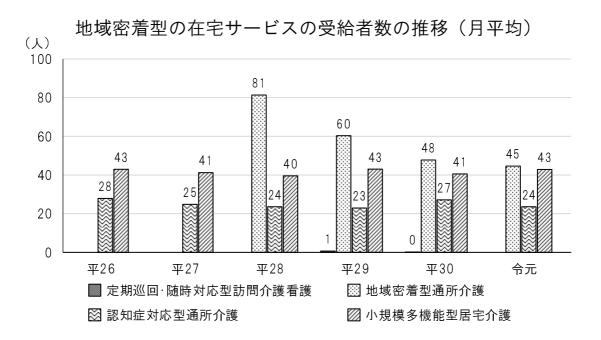
#### 4) その他の在宅サービス(地域密着型を除く)

福祉用具貸与の受給者数は平成28年度から30年度にかけては横ばいで推移しま したが、令和元年度は再び増加しています。また、居宅介護支援・介護予防支援に ついては、介護予防・日常生活支援総合事業への移行の影響により、平成29年度、 30年度と減少しましたが、その後は横ばいとなっています。



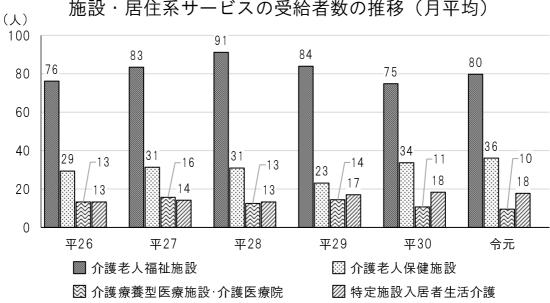
#### ⑤ 地域密着型の在宅サービス

地域密着型の在宅サービスの受給者数をみると、地域密着型通所介護は、移行し た平成28年度以降減少を続けています。認知症対応型通所介護、小規模多機能型居 宅介護については横ばいで推移しています。なお、定期巡回・随時対応型訪問介護 看護については町内の指定は無く、平成29年度、30年度に特例的な給付がわずか にあったのみとなっています。



#### ⑥ 施設・居住系サービス(地域密着型を除く)

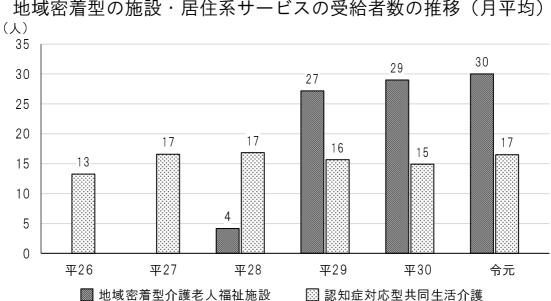
施設・居住系サービスの受給者数をみると、介護老人福祉施設は平成28年度をピ ークに減少し、令和元年度は再び増加しています。介護老人保健施設は平成29年度 に減少し、その後やや増加しています。介護療養型医療施設は減少してきており、 介護医療院に移行しつつあります。特定施設入居者生活介護については、平成29年 度以降、横ばいとなっています。



施設・居住系サービスの受給者数の推移(月平均)

#### ⑦ 地域密着型の施設・居住系サービス

地域密着型の施設・居住系サービスの受給者数をみると、地域密着型介護老人福 祉施設、認知症対応型共同生活介護とも、概ね定員に近い人数での利用がなされて います。



地域密着型の施設・居住系サービスの受給者数の推移(月平均)

## 2 アンケート結果からみた高齢者の状況と課題

計画の策定にあたり令和元年度に実施した下記のアンケートについて、結果の抜粋と、 そこから見えてきた課題を整理します。(ここに抜粋したものを含む「アンケート結果の 概要」については、巻末の資料編に掲載します。)

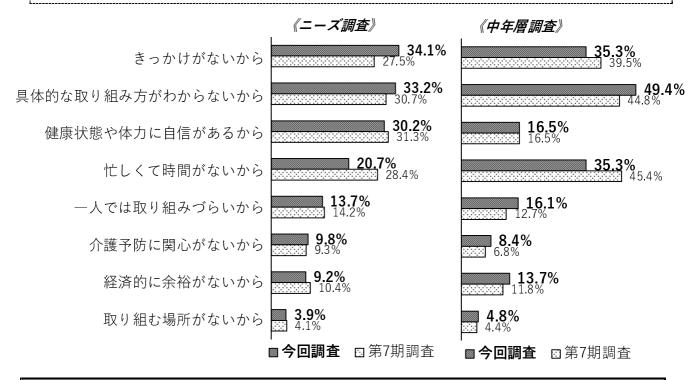
調査種別	調査対象者	調査件数	回収数	回収率
(1)介護予防·日常生活圏域ニーズ調査 【以降「ニーズ調査」とする】	要介護認定者を除く 65歳以上の住民	1, 000 人	679	67. 9%
(2)中年層調査 【以降「中年層調査」とする】	要支援·要介護認定者を 除く40~64歳の住民	1,000人	335	33. 5%
(3)介護保険サービス利用者調査 【以降「利用者調査」とする】	要介護1~5の介護 サービス利用者	500 人	225	45. 0%
(4)ケアマネジャー調査 【以降「ケアマネ調査」とする】	町内の認定者を受け 持つケアマネジャー	すべて (56 人)	44	78. 6%
(5)サービス提供事業所調査 【以降「事業所調査」とする】	町内の介護事業所	すべて (28 件)	21	75. 0%

<sup>※</sup>文中の「第7期調査」は、第7期計画に際して平成28年度に実施した調査の結果です。

## 課題1:健康づくり・介護予防の意識向上について

■ (介護予防に取り組んでいない方に)取り組んでいない理由は何ですか。(3つまで)

介護予防に取り組んでいない理由についてみると、「きっかけがないから」、「具体的な取り組み方がわからないから」の割合が高い一方、「介護予防に関心がないから」はそれほど高くありません。



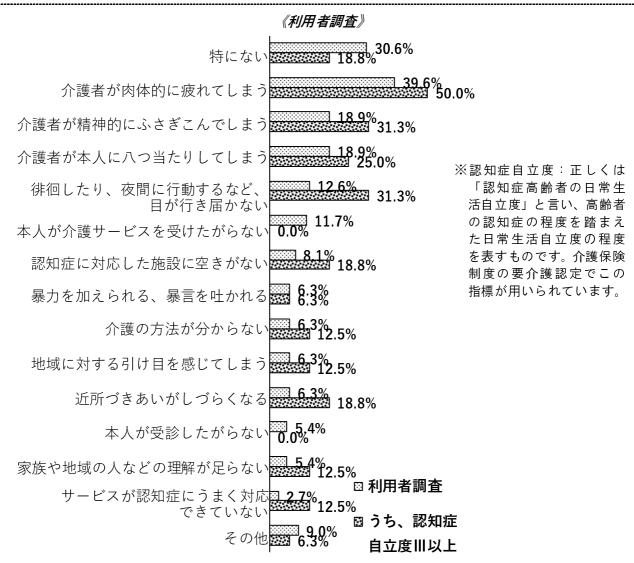
◎ 介護予防に関心がないわけではなく、きっかけがなかったり、方法がわからなかったりすることが取り組みの弱さにつながっていることから、介護予防に関する情報や機会を提供していくことが必要です。

#### 課題2:地域を挙げた認知症対策の充実について

■ 認知症に対して、介護者(主に介護している人)が困っていることはありますか。(複数回答)

認知症に対して介護者が困っていることについてみると、利用者調査では「特にない」が約30%となっており、困っていることとしては、「介護者が肉体的に疲れてしまう」が最も高くなっています。

認知症自立度<sup>※</sup>Ⅲ以上の方についてみると、「介護者が肉体的に疲れてしまう」も全体を約10ポイント上回っているうえ、「介護者が精神的にふさぎ込んでしまう」「目が行き届かない」も高くなっています。そのほか、「施設に空きがない」や「近所づきあいがしづらくなる」も全体に比べて高くなるなど、全般的に困りごとが多い様子がわかります。

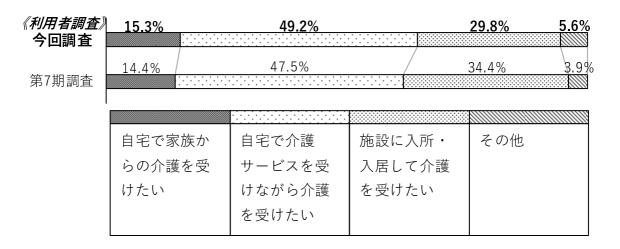


◎ 認知症の人を介護する人の困りごととしては、特に肉体的な疲れを訴える人が多いですが、経済的負担をはじめとする全般的な負担感や困りごとが多いことがわかりました。負担を少しでも減らすため、サービスの充実とともに、認知症の人の特性などに関する理解を促していくことが必要です。

#### 課題3:在宅介護支援の充実について

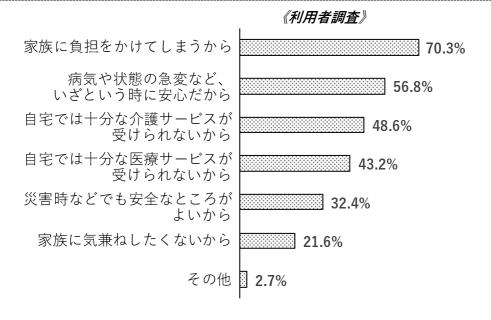
■ あなたが希望する今後の介護について、考えに近いものは何ですか。(択一回答)

介護が必要になった場合に希望する介護についてみると、「施設に入所・入居して介護を受けたい」は約30%であり、第7期調査に比べ5ポイント近く低下しています。



■ (施設に入所・入居して介護を受けたい方に) その理由は何ですか。(複数回答)

施設に入所・入居したい理由についてみると、「家族に負担をかけてしまうから」が最も高く、次いで「病気や状態の急変など、いざという時に安心だから」、「自宅では十分な介護サービスが受けられないから」が続いています。



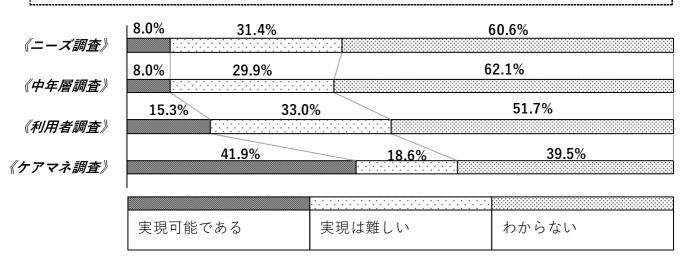
◎ 約 30%の方が施設入所の意向を持っており、家族への負担感が主な理由となっています。介護者の不安・負担の増大が在宅介護を難しくしており、在宅生活を希望される場合に、いかに介護の不安・負担を減らしていくかが課題です。

## 課題4:医療・看護・介護の連携強化について

- あなたは、前問でお答えになった場所 (人生の最期(看取り)を迎えたい場所) で、最期まで療養できると思いますか。(択一回答)
- 愛荘町の在宅医療・介護の環境において、ターミナルケアの状態にある人が在宅ある いは居住系サービスでの生活を希望した場合、最期まで療養できると思いますか。(ケ アマネ調査)(択一回答)

希望する場所で最後まで療養できると思うかについてみると、ニーズ調査、中年層調査、利用者調査では「わからない」が約50~60%を占める一方、「実現は難しい」が約30%となっており、「実現可能である」を大きく上回っています。

反対に、ケアマネ調査では「実現可能である」が約40%に上り、「実現は難しい」を大きく上回っています。

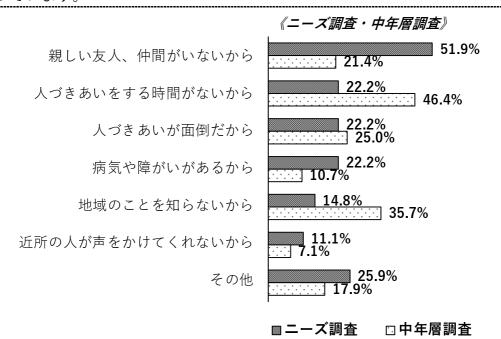


◎ 町民は在宅での療養・看取りが困難だと感じていますが、ケアマネジャーは実現可能だと考えています。在宅での療養生活を実現するためには、在宅医療・看護を充実させることが求められます。

## 課題5:高齢者の生活を支える環境づくりについて

■ (近所の人とはほとんど顔を合わさない、ほとんどつきあいはない方へ)ほとんど顔を合わさない、ほとんどつきあいがないのはなぜですか。(複数回答)

ほとんどつきあいがない理由についてみると、ニーズ調査では「親しい友人、仲間がいないから」が、中年層調査では「人づきあいをする時間がないから」が、それぞれ最も高くなっています。また、中年層調査では「地域のことを知らないから」も比較的高くなっています。



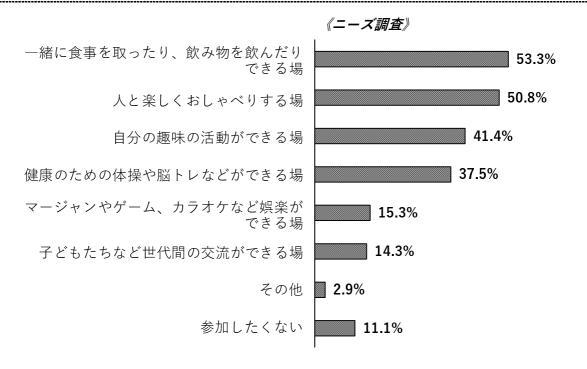
◎ 男女別・年齢別の詳細な結果からは、女性は高齢になっても近隣でのつきあいが継続するのに対し、男性は自治会やグループ活動が一段落する 75~80 歳以降、地域とのつながりが「あいさつ程度」となる傾向が読み取れます。つきあいがない理由は「友人、仲間がいない」というもので、きっかけさえあれば地域とのかかわりは保たれる可能性があることから、地域における交流、声掛けなどの活動を促していくことが求められます。

## 課題6:元気な高齢者の活躍の場の創出について

#### ■ 地域の中でどのような場があれば、参加したいと思いますか。(複数回答)

地域の中でどのような場があれば参加したいと思うかについてみると、「一緒に食事を取ったり、飲み物を飲んだりできる場」が最も高く、次いで「人と楽しくおしゃべりする場」、「自分の趣味の活動ができる場」、「健康のための体操や脳トレなどができる場」が続いています。

一方、「参加したくない」は約10%となっています。

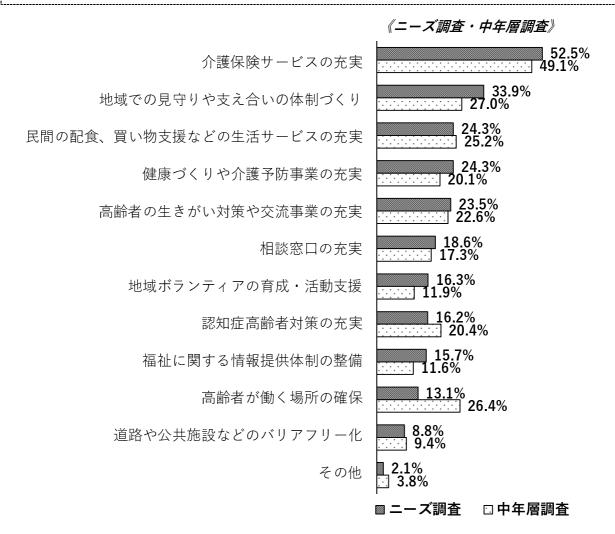


◎ 地域の中での居場所としては、「一緒に食事・飲み物が取れる場」、「楽しくおしゃべりする場」といった何気ない日常的な交流の場が志向されています。しかし、男女や年齢、健康状態の違いによって、その志向はさまざまであることがうかがえます。運動機能の低下や認知症、閉じこもりなどを予防するためにも、高齢者の外出の機会をつくることが必要であり、気軽に集まれるカフェやコミュニティレストランといった場づくりをはじめ、多様な志向に合わせた居場所づくりを促すことが求められます。

## 計画の見直しにあたって(全般的な設問の結果考察)

■ あなたは、愛荘町が行う高齢者保健福祉施策について、今後、どのような施策の充実 が重要とお考えですか。(3つまで)

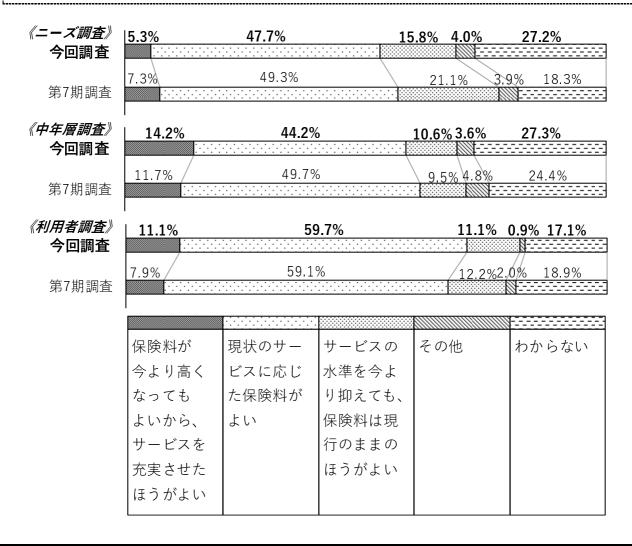
今後、施策の充実が重要と考える高齢者保健福祉施策についてみると、ニーズ調査、中年層調査とも「介護保険サービスの充実」が最も高く、次いで「地域での見守りや支え合いの体制づくり」、「民間の配食、買い物支援などの生活サービスの充実」が続いています。また、ニーズ調査では「健康づくりや介護予防事業の充実」が比較的高い一方、中年層調査では「高齢者が働く場の確保」が高くなっています。



◎ 高齢者施策としては、介護保険サービスの充実はもちろんのこと、地域での見守り、 支え合いの必要性が認識されています。これらを地域包括ケアのしくみの両輪としな がら、生活支援、介護予防、高齢者の就労などにも力を入れていくことが求められて います。 ■ 皆様にご負担いただく介護保険料は介護サービスの利用量によって決まります。保険料とサービスのあり方について、あなたの考えに最も近いものはどれですか。(択一回答)

保険料とサービスのあり方についての考えをみると、いずれの調査でも「現状のサービスに応じた保険料がよい」が最も高い一方、「わからない」も高くなっています。

第7期調査と比較すると、「保険料が今より高くなってもよいから、サービスを充実させたほうがよい」が二一ズ調査ではやや低下したものの、中年層調査、利用者調査では上昇しています。



◎ 介護保険料とサービスについては、現状のバランスでよいと考えている人が多いですが、現在利用している利用者調査、介護者になる可能性がある中年層調査ではサービスの充実を求める人も増えており、保険料負担とのバランスをみながら、サービスの充実を図っていくことが求められています。

## 3 第7期計画の検証結果からみた課題

第8期計画の策定にあたり、第7期計画のアクションプランに沿って進めてきた取り組みを評価・検証することによって「成果と課題」を抽出します。第8期計画においては、成果がみられた取り組みをより充実させ、課題がみられた取り組みを見直し、地域包括ケアシステムの深化・推進につなげていく必要があります。

#### (1) 第7期計画の総括評価

第7期計画の進捗状況(令和元年度末時点)をみると、「計画より早く進んでいる」が1事業、「計画通り進んでいる」が16事業、「計画より遅れている」が13事業となっています。このうち、施策4の医療・看護・介護の連携強化は2事業とも計画通り進んでいますが、施策1の介護予防の充実、施策2の認知症対策の充実、施策3の在宅介護支援の充実については、半数の事業が計画よりも遅れている状況であり、改善を図るとともに、内容や実施方法を見直し、第8期計画に反映させていく必要があります。

	進捗度						
施策体系	計画より 早く進んで いる 〔◎〕	計画通り 進んで いる [○]	計画より 遅れて いる 〔△〕	まったく 進んで いない 〔 <b>×</b> 〕	合計		
施策 1 介護予防の充実	1 (25%)	1 (25%)	2 (50%)	_	4		
施策 2 認知症対策の充実	_	3 (50%)	3 (50%)	_	6		
施策3 在宅介護支援の充実	_	2 (50%)	2 (50%)	_	4		
施策 4 医療・看護・介護の連携強化	_	2 (100%)	_	_	2		
施策5 生活支援·見守り体制の充実	_	5 (56%)	4 (44%)	_	9		
施策6 生きがいや余暇の充実	_	3 (60%)	2 (40%)	_	5		
全体	1 (3%)	16 (53%)	13 (43%)	_	30		

# (2) 第7期計画の施策・事業ごとの評価

第7期計画の施策・事業ごとに進捗状況を評価し、成果と課題を整理しました。 なお、評価の凡例は「◎:計画より早く進んでいる」、「○:計画通り進んでいる」、 「△:計画より遅れている」、「×:まったく進んでいない」を表します。

	事業体系	平 30 評価	令元 評価	成果(◇)と課題(▲)
施	策1 介護予防の充	実		
	1健康づくりの推進	0	0	◇びんてまり体操を広く普及でき、若年層にも触れる機会を設けることができた。地域が主体となって体操を始める集落もみられた。 ▲より一層、町民が主体となった取り組みにつなげていく必要がある。
	2 中年層からの介 護予防の啓発と 実践	0	0	◇参加者アンケートによると運動指導の実施内容は好評であった。 ▲健やか愛ポイント制度は、働く世代の参加に向けた事業実施の方法の検討が必要である。
	3 介護予防·日常生 活支援総合事業	Δ	Δ	◇悠々教室、健康元気もりもり教室を通じて、介護予防の啓発や自主的な活動につなげることができた。 ▲端緒についたところでまだまだ活動数は少ないため、 今後のフォローが重要であるとともに、他の集落への 展開が求められる。
	4 介護予防効果検 証(介護予防ケア マネジメント含 む)		Δ	<ul><li>◇地域ケア会議において専門職からの助言を受け、自立 支援・重度化防止に向けたプラン作成を行うことがで きた。</li><li>▲介護予防効果の検証件数はまだまだ少なく、地域ケア 会議での検討結果を広げ、自立支援・重度化防止につ なげていく必要がある。</li></ul>
施	策2 認知症対策の	充実		
	5 認知症理解の普 及・啓発	Δ	0	◇新しい啓発の場を設けることで、認知症事業の協力者が増加した。また、秦荘図書館と協働で認知症カフェを設置することができた。 ▲認知症サポーター養成講座の開催など、企業の理解・協力を得る取り組みが必要である。
	6 認知症の早期発 見	Δ	Δ	<ul><li>◇地域ケア会議において認知症ケアパスの検討を行った。</li><li>▲認知症セルフチェックの実施方法の見直しが必要であるとともに、認知症相談窓口の設置が遅れており、対応が急がれる。</li></ul>
	7 適時・適切な医療・介護等の提供		Δ	◇湖東地域で「認知症早期発見・早期診断マニュアル」 を改訂し、医師等に向けて普及を図ることができた。 ▲認知症初期集中支援チーム利用数が目標値より下回っており、さらなる周知が必要である。
	8 若年性認知症への対応	×	0	◇若年性認知症の発症数が町単位では少ないため、障がい担当部局と連携して対応できている。 ▲県が中心となって若年性認知症の支援策を行っており、積極的な活用が求められる。

	± * '	平 30	令元	
	事業体系	評価	評価	成果(◇)と課題(▲)
	9認知症の人やそ			◇秦荘図書館と協働で認知症カフェを設置することが
	の家族・介護者支			できた。
	援	Δ	$\circ$	▲認知症相談窓口の設置が遅れており、対応が急がれ
				る。また、認知症に特化した家族会について、参加し
				やすくするための見直しが必要である。
	10 認知症にやさし			◇認知症高齢者見守りQRシール交付事業を開始し、徘
	い地域づくり	Δ	Δ	個高齢者の発見のための環境整備が進んだ。
				▲徘徊模擬訓練の開催に向けては、町民の意識を高める
+/-	   <u> </u> 	の大中		とともに、自治会に向けた働きかけが必要である。
池	(策3 在宅介護支援 「11 地域密美型共	の允夫		へ地域家美刑サービス選挙委員会会の协議のナル 第二
	11 地域密着型サー   ビスの確保·提供			◇地域密着型サービス運営委員会での協議のもと、適正    な事業実施がなされた。
	ころの確体・旋洪	0	Δ	な事未美施かなされた。  ▲地域密着型サービス事業者連絡会の参加率が 75%で
				▲地域密有型サービス事業有連絡云の参加率が 75%で    あり、開催方法等の検討が必要である。
	  12   居宅サービスの			◇ほぼ計画通りにケアプランチェックを実施すること
	確保・提供			◇はは計画通りにケテクランチェックを天施すること   ができた。
		$\circ$	0	▲介護職員初任者研修助成事業へのニーズが高く、介護
		)	)	職員の確保と質的向上のため、事業を拡大していく必
				要がある。
	13 家族介護者への			◇介護用品購入助成事業、介護者激励金支給事業、相
	支援			談・訪問支援等により介護者への支援が実施できた。
		Δ	0	▲介護マークの貸出希望者がおらず、引き続き広報を継
				続して認知度を高める必要がある。
	14 一時的に休息で			◇ショートステイの利用期間に関し、適正化の観点から
	きる環境づくり			ケアプランを審査し柔軟に対応することができた。
		Δ	Δ	▲緊急時対応のための居室確保について1部屋のみの
				確保となっており、目標の2部屋確保に向けて、事業
				所への働きかけを進める必要がある。
施	策 4   医療・看護・ 	介護の	連携強	
	15 在宅医療・看			◇県の研修を活用し、3コーディネーター(医療・認知
	護·介護体制整備	0	0	症・生活支援)が今後の活動ビジョンを共有できた。
				▲在宅の現場にビジョンを落とし込み、医療・看護・介
	16 大中手服 11 十坪			護間の連携を円滑にすることが求められる。 ヘ在字医療・ヘ禁連携の改発スナーラノを受力取る関係
	16 在宅看取り支援			◇在宅医療·介護連携の啓発フォーラムを愛荘町で開催    し、多数の参加と高い満足度を得ることができた。
		Δ	0	し、多剱の参加と高い両定度を侍ることができた。    ▲在宅での看取りが実現するよう、相談体制などの充実
				▲任七七の有取りが美現するよう、相談体制などの元美    が求められる。
旃	<u>l                                    </u>	<u> </u> 守り休	制の充	
ווע	17 見守り・緊急時	·1 / ι·	ال ۲۷ دران	·ス ◇見守りホームヘルパー派遣事業や緊急通報システム
	対応の充実			の制度周知は計画通り実施できた。
		0	0	▲ふれあい収集事業は、申請条件を満たさない人からの
				申請が多く、見守りの一環であることの福祉的な趣旨
				についての丁寧な説明が必要である。
	18 防犯·防災対策			◇全国で河川氾濫等の大規模自然災害が多発しており、
				ハザードマップにて意識啓発や情報提供を行った。
		0	0	▲避難行動要支援者に対する支援体制の構築が進んで
				おらず、地域に対する理解と協力を呼びかける必要が
				ある。

		平 30	令元	
	事業体系	評価	評価	成果(◇)と課題(▲)
	19 移動支援			◇愛のりタクシーの利用促進に向けて、路線の再編、料
		^	^	金値下げ、割引制度の創設などを実施した。
		Δ	Δ	▲鉄道やバス、巡回バス、通院支援助成などを含め、高
				齢者の移動支援を総合的に検討する必要がある。
	20 買物や食事等日			◇配食サービスについては、新規利用者もありほぼ計画
	常生活の困りご			通りに事業を実施することができた。生活・介護支援
	とに関する支援	0	$\triangle$	サポーターの登録者数も順調に伸びている。
		)		▲生活·介護支援サポーターが生活支援サービスを提供
				できるような体制づくりが求められる。
	21 共生社会づくり			◇高齢者などを一丸となって支援できる地域共生社会
				の実現をめざし、地域福祉計画を策定した。
		$\circ$	0	▲生活支援グループの組織化に向け関係機関との協
	22 安心して暮らせ			◇広報により介護保険制度についての概要等を周知す
	る住まいづくり			◇ 仏報により / ・
	支援	$\triangle$	$\triangle$	ることができた。  ▲空き家の活用については進捗しておらず、町の空き家
	义饭			- ''''
	00 北 1 土 1 生。			対策を含め、取り組みを進める必要がある。
	23 老人ホーム等へ	0	0	◇サービス調整会議を毎月開催し、情報共有の徹底を図
	の入所措置支援			ることができ、必要な対応を図っている。
	24 高齢者の虐待防			◇広報にて総合相談窓口の案内を行うとともに、介護者
	止と早期発見	$\triangle$	Δ	向け虐待防止対応研修を開催した。
				▲ケースが少なくサポートチーム会議の開催が限られ
	OF			るため、定例会議で情報共有することが必要である。
	25 高齢者の権利擁		_	◇成年後見制度の町長申立てを実施した。
	護	Δ	0	▲今後は利用が増えることが予想され、制度利用を促進
Ш				するための相談体制の整備が求められる。
施	策6 生きがいや余	暇の充	実	
	26 地域における居			◇高齢者助け合い事業、ふれあいサロン、居場所づくり
	場所づくり	0	Δ	について、実施集落への助成を行った。
		)		▲住民主体による活動の継続に向けて、意識を高めると
				ともに、必要な支援を行うことが必要である。
	27 生活 · 介護支援			◇生活・介護支援サポーター養成講座とフォローアップ
	サポーター養成	Δ	^	講座を実施し、住民主体の地域づくりにつながった。
		$\triangle$	Δ	▲生活・介護支援サポーターが自主的に生活支援サービ
				スを提供できるような体制づくりが求められる。
	28 ボランティア活			◇地域支え愛ポイント制度が町民へ浸透してきており、
	動支援			ボランティア登録者数の増加につながっている。
		0	0	▲ボランティア登録者数の伸びが鈍化しており、ボラン
				ティアの必要性を訴えていくことが必要である。
	29 シルバー人材セ			◇健康元気もりもり教室の送迎業務等、町事業の委託を
	ンターの活動充			行い、活動が充実している。
	実	0	0	▲企業の定年延長等により登録者数の減少が懸念され
				ており、登録者数の確保に努める必要がある。
	30 老人クラブ活動			◇日頃の活動により、優良老人クラブとして各種表彰を
	支援			受ける老人クラブがあった。
	~ 340	0	0	▲加入促進につなげるため、クラブへの助言や指導を行
				一うことが求められる。
				> - C // // > 1 = 0 0

# (3) 重点目標に対する検証と第8期計画に向けた課題

第7期計画の重点目標に照らして計画の実施状況を検証してみると、第8期計画に向けて、アンケート結果も踏まえて次のような課題が浮き彫りとなります。

## ①中年層の健康維持と介護に関する意識の向上

第7期計画における認識	「中年層は自らの健康を維持し、将来、誰かを介護する、または誰かに介護される立場になることを認識する必要があります。」
関連する主な取り組み実績と成果	○昨年度完成した「びんてまり体操」は継続して出前講座を 実施しており、中年層にも体操に触れる機会を設けること ができました。
第8期計画に向けた課題	■アンケートの中年層調査においては介護の経験のない人も 半数程度おり、介護予防への「取り組み方がわからない」 人が多くいます。今後、フレイル予防といった面でも、老 後を迎える前からの取り組みが重要になるため、より一層、 中年層に向けた意識啓発が求められます。

#### ②元気な高齢者の介護予防と社会参加の促進

第7期計画における認識	「高齢者は、元気な間は自らの介護予防に努めながら、心身に不安を抱える高齢者を支援するなど、社会に居場所と活躍の場を持つことが求められます。」 〇健康元気もりもり教室は好評であり、住民主体で介護予防に取り組む集落も出てきました。 〇第1号被保険者の要支援・要介護認定率が目標値を下回っていることから、介護予防の取り組みが効果につながって
組み実績と成果	いると考えられます。 〇生活・介護支援サポーターの登録者数が増えており、各種 教室の補助や自主活動グループの運営等に関与していま す。
第 8 期 計 画 に 向 け た 課 題	■アンケートの介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では介護予防に取り組む人がやや減少しており、きっかけがなかったり、方法がわからなかったりすることが取り組みの弱さにつながっています。今後は、びんてまり体操の普及や健康元気もりもり教室の実施を通じて、介護予防に関する情報を提供するとともに、身近な場で機会づくりをしていくことが求められます。 ■アンケートの介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では、ボランティアとして活動する条件に、仲間の存在や得意なことを生かせることなどが挙げられています。今後、生活・介護支援サポーターは、生活支援サービスを担う存在として期待されることから、グループの組織化や活動しやすい環境づくりを進める必要があります。

# ③安心できる在宅介護の定着

第7期計画における認識	「介護が必要になったときには、自宅を中心とする住み慣れた地域で、家族や友人に囲まれて暮らせるという安心感を持てることが求められます。」
関連する主な取り組み実績と成果	○認知症対策として、新たに認知症カフェを開設することができ、月1回の開催で平均13人の参加があります。 ○看取りに関するフォーラムへ多くの参加が得られるなど、 在宅医療・看護・介護に関する関心が高まっています。
第 8 期 計 画 に 向 け た 課 題	■アンケートのサービス利用者調査やケアマネジャー調査からは、高齢者を介護することの負担感、なかでも認知症になるで、できれています。負担感や不安を少しても減らである。ことを不安視しています。負担感や不安を少してとともに、認知症の特性に合ったサービスの充実ととももに、認知症に対する理解を促していくことが求められます。  ■アンケートの各調査からは在宅での療養・看護・介護の主法が、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは